

令和6年度 第1回 西宮市立こども未来センター運営審議会 議事録

日 時：令和6年6月3日（月）10時00分～11時55分

場 所：こども未来センター4階 会議室

出席者 【委員】 新澤伸子、松井学洋、金高玲子、田村三佳子、畑本秀希、武山正樹、出路賢之介、
原田愼一

【事務局】 こども未来部長兼発達支援課長 谷口

こども未来部参事 太田

学校教育部長 秦

こども未来部参事兼特別支援教育課長 渡邊

こども未来部発達支援課係長 藤長、吉田

こども未来部診療事業課長 中川、同係長 町田

こども未来部地域学校支援課長 木村、同係長 大山、村田、同主任保健師 高山
健康福祉局保健所地域保健課担当課長 高槻

議題 (1) 令和5年度こども未来センター実績について

(2) 令和6年度主要な事業について

開 会

○開会

配布資料の確認、進行方法の確認

○議事

傍聴者なし

【会長】

議題1「令和5年度こども未来センター実績について」、議題2「令和6年度主要な事業について」事務局から説明をお願いします。

【事務局】

～各担当者より説明～

【委員】

出張セミナーは校長先生だけが対象なのか。

【事務局】

出張セミナーはすべての教職員の先生が対象となって、ディスカッションしたり講演を聞いていただいたりということになっている。窓口は校長先生。

【委員】

聞いている先生方の反応はどんな感じか。

そういう対象の子供たちを見て、悩んでいるふうなのか、あまりよくわからないという感じの聞き方なのか、印象で結構なので教えていただきたい。

【事務局】

非常に悩まれている先生が大半だと思う。

あらかじめ学校から、特にこの学年を見て欲しいという依頼をいただいて、どんなことで困っているかなど、事前に教えていただいている。

そしてその場を見せていただいて、先生方は学校の先生としてのスキル、経験から見立てておられるので、そこに医療的に見るとこうですよということをお伝えして、新たな見方をしていただいている。新しい見方や支援を伝えるだけでなく、既に適切な支援を悩みながら進めておられる先生も多いので、「今のまま続けていただけたらいいですよ」という形で、安心していただくような面の貢献もある。印象としては、困っておられたり、悩んでおられる先生が多いと感じている。

【委員】

いわゆる教育のプロではあるが、医療というか、療育についてはいわゆる素人。

現場は教育であるというしんどさは結構あると思うが、何か教科書的なものがあると、現場の人は嬉しい。先生のいるときは多分安心だと思うが、先生が帰った後はどうしようという感じになると思うので、そういうものがあるといいと思った。

それと年間60名の卒園生がいて精神科医と繋がっているというのも、僕自身はすごく衝撃的な言葉で、10年経ったら600になるのか。

何か教科書で二次障害とかを見ているので、その無念さみたいなものがあって、やっぱり幼児期とか小学校低学年、高学年ぐらいの対処って本当に大事で、親にも問題あると思うが、教科書というか、何か、いつも手に持って安心できるものがあるといいと思う。

【事務局】

夏休みに行く研修で、一般的な発達障害の理解、基本的な対応を、すべての先生に聞いていただいて、それを1つの学校で2年間やる。2年目は応用編で、基本の知識を知っているという前提で、さらにもう少し深いところをお話しているので、それを聞いていただくところのスキルを先生方に身に付けていただけるという感触をモデル校で得たので、オフィシャルという形で進めている。

精神科との連携は、すべてのケースで成人になっても必要だという形でなく、大半の方はかなり落ち着いていて、日常生活が概ね良好に送れる状態になって未来センターを卒業しているが、環境変化によっ

て調子が悪くなる方もおられるので、そういう時に市内にこういうところで助けてくれる先生がいるということをお伝えして、安心して卒業していただけるように進めていきたい。

【副会長】

診療の発達障害の学習会に関連しているところで、資料1の2・3ページ「イ みやっこファイル」と、「ウ ペアレント・プログラム」と「エ 発達障害の学習会」で、「イ みやっこファイル」はサポートブックの作成の指導だと思う。「ウ ペアレント・プログラム」も、内容的にはADHDのお子さんを育てている保護者さんにとって有効で本当に質のいいプログラムをされていると思うが、もしプログラムを改善して利用者をふやしていきたいというときに、イ・ウ・エはすべて関連する内容なので、1つのプログラムとしてまとめて、まず初回に発達障害学習会をして、そのあとサポートブックでペアレントトレーニングの講座というふうに、1つのまとまりのプログラムとして提示した方が、保護者の方にとってはわかりやすいと思うし、また自分の興味あるところでも参加しやすいと、この3つを接続してやっていけばいいのではないかと思った。実施が平日である場合、それほど大きくは参加者が見込めないと思うが、例えば土曜日に実施するほか、そういうところが必要ではないかと思った。

【委員】

モデル校ということで、それ以上を望むのはどうかと思うが、依頼があればとおっしゃったのは、例えば、幼稚園保育園の先生たちの研修とか、依頼をすればそういう勉強会もお願いできるか。

【事務局】

実は幼稚園も、過去2校ほど同じようなプログラムで、2年間かけてレクチャーをして、保育の様子を見せていただくという試みをさせてもらったので、幼稚園保育所等からも依頼があれば、何にお困りかお聞きして、こういう形が一番いいのではという形で提案できると思う。

【委員】

ぜひお願いしたい。

【委員】

小学校の先生にレクチャーしているということだが、学校の先生方は、自分の子供が通っていた小学校でも、1年でいなくなったとか、3年4年と長くやっている方の方が少ないというのが保護者側からの感覚である。

先生方が学んだことを持ち帰って学校全体で見直しをするというお話もあったかと思うが、その年に先生方をレクチャーするというだけでは、それは結構短期的な解決だと思う。

長期的に先生方を育成していこうという考えが学校側にあるのか、その辺りが通わせている保護者側の視点としては気になるころであって、この先生すごくいいけど来年はいなくなるかもと思いながら関係性づくりをしているというのが正直なところ。

その辺りについて、先生方に教えている立場としてどのように感じているか。

【事務局】

とても大事な視点だと思う。出張セミナーの長期的なねらいは、先生のスキルに個人差をなくすという、どの担任の先生にあたっては保護者の方、或いは子供たちが安心して、去年と全然対応が違うということがないようにするという事。

いくつかの学校を選定してやっていくが、年数を重ねていくと市内である程度研修を受けた先生が増えていく。当然異動があるが、異動先でも私のセミナー聞いていただいたことを活かせるように続けていって、長期的にはどの学校の先生でも一定の理解があるという形で、保護者の不安を減らしていきたいと思ってやっている。

【委員】

先週の金曜日に、北山学園の卒園生 20 数名と、今在園の方 10 名ぐらいとで、懇親会みたいな形で、西宮でやった。

そのときに、支援級に進みたいけど不安があるという方に対して、体験を語るお母さんたちから、耳を疑うような支援級の先生の話とかがあって、在園の皆さんの不安があまり強くなりすぎたので、これはあくまでも一部の話という形でお話をしたが、そこにいた保護者がショックを受けるような話も多かった。

リソースの問題もあって、すべての小学校に一気にというのは難しいかもしれないが、そういう形で積み上げて、先生との理解が深まって保護者の方の関心も高まるような形で、進んでいけばいい。

【事務局】

特別支援教育課と教育研修課、地域・学校支援課が連携して教員の特別支援教育に関するスキルアップのために研修を受ける。

例えば、初年度、初任者になった先生たちについては、まず初任者研修のプログラムの中に、特別支援教育の研修を入れている。それから 4 年時研修にも支援学校の先生に研修をしてもらっているという側面もある。

任意となるが、地域・学校支援課で、多くの研修を組んでいる。

先ほど北山学園の話があったが、保護者からのご意見については、新入生の保護者がすごく不安を抱えていると思うので、必ず就学相談の中でその辺りの不安を少しでも解消できるように話をしていきたいと思っているので、実際に体験された保護者の話はあると思うが、新入生の保護者に少しでも不安をなくしていただくような取り組みをこれからも進めていきたい。

【委員】

少しでも保護者の不安をなくす取り組みをしてもらえるのは、大変ありがたいと思う反面、今まで聞いた話や、小学校や特別支援学校、芦特の様子は、上の子たちが通っていた小学校の時代に似ていた。時代が変わったこともあって今の取り組みや現場のことはわからない面もあるが、先生たちの配置のされ方など、親の目線から見て疑問を感じる場所がある。

前年に体調を崩して休んでいた先生が支援級に復帰したというようなことがあって、実際の先生のスキルはわからない、もしかしたらここは復帰しやすかったのではないかと保護者の間で思われてしまう。

そういった事例もあって、なかなか先生に対する信頼が高まらないというのが支援級の親にあるということはお伝えしておきたい。

中には先生と一緒に子供を育てていく、先生たちには、まだそこまで知識はない、ということを理解した保護者もいて先生と協力してやっていきたいという前向きなところもあるが、子供に録音マイクを入れようかと悩んでいるような保護者もおられたりというところで、なかなかその信頼関係を埋めていくことは簡単ではないと感じる。先生方が一生懸命やっていることはわかるが、それによって効果がどう出たのか、こういうふうに改善が行われているということが出てこないと保護者としては、何か安心できない側面もある。

【委員】

先生方の変わるタイミングは結構早く、特別支援学級の方が早いのではないかと。スキルがいるようなものが、こんなタイミングでどんどん回ってもいいのか。全員がスキルアップできたらいいが、先ほどの説明でも、そんなにしょっちゅうやっているわけではないということもあるから、1の資料の32ページ目に出張セミナーや、33ページ目に教職員の研修企画があるが、本当にたまたま実施されている。どれだけスキルアップできるか、疑問に思う。

【会長】

現場の当事者からの生々しい意見があったが、出張セミナーは非常に画期的だと思う。出張セミナーという位置付けではなく、モデル校育成事業という形で事業化して、もっとオープンにしていったらどうか。

実際、それを目論んでいて、最初はモデル的にやって、今年から公募の形にしているということ。他府県でもこのような形で、モデル校を育成していくときには2年単位で個々の児童生徒への支援ではなくて、その学校全体の支援力を高める目的で学校単位で1年ではなくて2年単位で介入している。

これを事業化していったいいと思うし、もっと公表して、例えば令和6年度は鳴尾小学校と上ヶ原南小学校がモデル校に選定されたということであれば、学校長をはじめそのモデル事業を受けた支援団を来年度に変えるということはないような位置付けにして、公にすることで、そういう体制も整えていけると思う。

出張セミナーが増えて医師が出てしまうと、また診療が圧迫されるので、ぜひアウトリーチ事業全体を見直してほしい。

保育所等訪問支援はまさに個別給付で、個に対する支援だと思うが、国の方でも個の支援だけではなく地域にある事業所支援、機関支援をするように方向性が出ているし、その中核機能強化事業が打ち出されている。

同じような仕組みで幼稚園に行っていると言われていたが、小学校についても1人の人材で回していくのではなくて、チームとして回し、公にして事業化していくことによって、今年の先生はよかったけど、来年は、ということがなくなっていくし、就学前の保護者の不安は、就学前相談で話を聞いて解消されるようなものではなくて、西宮市としてこのような事業を年単位で平面的に実践していることが見えて、そこに向かっていくということだけでも、一筋の灯りになるので、ぜひ事業化していただきたいと思う。

【委員】

相談支援の主な事業で、ペアレント・プログラムが減っていることを受けて、センター内に新たにポスターを掲示したということで、まだ2ヶ月しか経っていないが、受講者が増えたのかということと、もし効果がなければ何か他の手だてを考えるべきだと思うが、その辺りはどうか。

顔テレビの機械が故障したために件数が減ったと書いているが、今どうなっているのか、修理して直るものなのか、直らないのであれば、更新するようなことを考えているのか。

【事務局】

顔テレビは、昨年度も故障して、直すには予算的にもものすごく額がかかるということなので、もう今年の時点ではなくしている状況。

【事務局】

今年度、昨年度、ペアレント・プログラムの募集枠が前期後期で10名ずつとなっているところ、前期が5名で、途中で1人来られなくなってしまい、4名。

後期は、急な妊娠や、ご家族の介護など、急なキャンセルがあって、募集人数は多かったが5名になってしまったので、今年度からは、センター内にポスターを掲示して、常時プログラムがあることを周知して希望される方を募る形に変えている。ただ、まだ掲示して、2ヶ月ほどなので、あまり募集が多くなっていない。職員が必要と思う方にお声掛けをして、今年度は6名でスタートしている。

【会長】

顔テレビは故障して中止ということだが、今日の報告では、顔テレビを導入するだけでなく、地域支援との連携を開始しており、今年度はより地域との連携に力を入れていくとある。

例年この審議会で顔テレビ導入後のフォローアップ体制どうなっているかについて、いろんな委員から発言があったが、今後どうなるのか。

【事務局】

今後のフォローアップについて、まだ具体化はしていないが、地域保健課の方と情報共有するための会議を持っている。

その中で、案内していただいた後にみらいセンターを利用しながら、保健センターでどのようにフォローしてもらうか、新たにフォローアップするために、何らかの事業が必要ではないかということで、新たにみやっこファイルなどをどのように活用していただくか、書き方教室の案内のタイミングを保健センターと合わせられないかなど、まだ具体化していないけれども、そういった方向で進めていきたい。

みやっこファイルとペアレント・プログラムを、発達障害の学習会のパッケージ化というか、より濃厚にする必要があると思っていて、相談支援チームの『ふらっと』という事業名で、みやっこファイルの書き方と、登校に悩みを抱える保護者の会、就学相談を、時期的に診察等間に合わないような方が出ないように、年中の年齢からできないかということで今年度事業を組んでいる。

一旦相談支援チームで組んだものをセンター内で拡大し、ペアレント・プログラムや発達障害学習会を

連動できないか、貴重なご意見をいただけたと思っている。

【会長】

そのように事が進んでいるということであれば、ぜひ主要な事業に記載してほしい。

私どもが委員を何年か続けて出ていると、この主な事業についての資料が、去年度のもの今年度のものとはほぼ全く同じ。説明を直接聞くと、さらにいろいろなことを進められているようなので、市民に公開されるものであり、今説明された『ふらっと』を実施されているというようなことを盛り込んでいただきたい。

【委員】

今のパッケージ化については、ぜひ力を入れてやっていっていただきたい。

私の孫が1歳半健康診断を受けたときに、担当の医師から『私は内科医なので、肢体不自由関係はアドバイスできないので、〇〇の病院行ってください』と指示をいただいた。

このケースのようにはっきりと紹介があるあるのとないのとは差が出てくる。早い時期にみやっこファイルのようなものが手元にある方がいいと思うので、医師会とも相談して活用について考えていただきたい。

不登校のところで、1,190名の子どもが来所相談されている。文科省の調査によると、不登校がピークだと思う。しかも小学校の低学年から不登校、学校への行き渋りがあると聞くと、電話に対応したあとのつなぎ方を具体的にどのようにされているかを教えていただきたい。

【事務局】

相談員の具体的なアドバイスについて、保護者にその場で返すこともあるが、学校と保護者間の難しい関係があれば、一旦置いて、相談員内で確認したり、学校で今どういう状況なのかを確認して保護者に返したりしている。

【委員】

とりあえず保護者に返すだけなのか。

【事務局】

相談については保護者に返すことが基本。

今のところ、直接学校園に指導というか、話をするところまでは至っていないが、内容的に学校園として考えなければいけないところがあれば、私たち教員出身者がいることの強みとして、学校園に返すという考え方を持って取り組んでいきたい。

【事務局】

寄り添い、居場所、伴走者というところで、教育支援センター『あすなろ』を市内各所に開設している。そこに通所できないお子様には『あすなろオンライン』というオンライン事業を実施している。

さらに、保護者に対しても、西宮市、保護者の会等々で、保護者の意見を丁寧に聞き、しかるべきサポ

ートをしっかりしていくということを務めている。

【事務局】

不登校相談限定ではないが、保護者に同意をいただいて学校と保護者の間を調整するとケースはある。ささいな行き違いや、正しい情報が伝わっていない場合もあるので、こちらから学校の先生方に、保護者の同意を得てみらいセンターの見解を伝え、なおかつ、保護者に学校はこうとらえているということ伝えるというもの、数件ではあるが、そういった調整を行うことで、学校と保護者が身近に相談できる。必要に応じて、学校と保護者の調整も行っている。

【委員】

きちんと「〇〇へ行きなさい」と言われた保護者はいいが、そうでない保護者、全然気がつかない保護者がたくさんいる中で、学校とどここというより、その保護者をどう救っていくか、そういう体制を考えていただきたい。

資料2の4ページの「課題及び分析、(1) 来所相談」で、「多岐にわたる相談ニーズにこたえるため、様々な専門家を招いて事例検討を行うなど、相談員のスキル向上に努めている。」とあるが、様々な専門家というのは、具体的にはどのような専門家なのか。藁をもすがる思いで来られる方々にどのように答えているのか。

【事務局】

専門家を招いての事例検討で、相談員、心理士も含めたスーパーバイズ研修。

相談支援チーム、学校園支援チームも含めて、今年度この研修を実施して相談員のスキル向上に努めていくこととしている。

【委員】

どういうスキルアップをされるのか。

【事務局】

相談支援チームの中では、発達障害者支援センターから専門家を招いて家庭内暴力についてのレクチャーを予定している。その次に社会福祉士をお呼びして、ソーシャルワークに関する研修を予定している。

事例検討で調整している心理の先生もいらっしゃるので確定ではないが、ケース対応や、昨年相談支援で受ける中で家庭内暴力の案件が多かったことを受けて、多く出てきている課題に対してのスーパーバイザーをお呼びしている。

【事務局】

学校園とスクーリングのスーパーバイズは小児科医師、西宮市教育委員会スクーリングサポート事業スーパーバイザー、『あすなろ』スクーリングサポートは、学校保健安全課の研修指導員等を考えている。年に3回予定している。

【事務局】

学びは大事だと思うが、ぜひ実践に活かしていただきたい。

【委員】

みやっこファイルの書き方教室実績で、回数と参加者が、普及させるにはかなり少ない。ペアレント・プログラム発達障害の学習会もそうだが、もう少し何とかならないか。

【事務局】

このファイル自体を知っていただく機会ということで、特別支援教育課で実施している就学相談のガイダンスに行かせていただいている。年4回やっていて、就学相談の補足はまたあればしていただきたいが、熱心な保護者が来られている。

初回に私も行かせていただいたが、110名を超える保護者が来られていて、ファイルのことを知っていただいたり、自作している方もおられた。

自分たちでこれまで関わってきた療育の専門家や、利用した事業所で使われているものを綴じて使っている方で、改めてそういうものもあるなら、と希望された方もおられた。

ホームページからダウンロードできるようにしており、部数は非常に伸びている。

実際に通っておられ、訓練の際に相談支援に寄って持って帰る方もおられるので、数自体はすごく出ているが、知っていただけれども改めてどうするのか、という方もおられるので、まずは配布を充実させることと、中身が少し古くなっている部分もあるので、今年度正しい情報に更新しようと思っている。

【委員】

体裁はみやっこケアノートみたいなイメージか。

【事務局】

もう少し簡単なものになっていて、基本的な部分と、あと追加で入れていただくために、例えば避難計画とか、そういったものを別に綴じるようにしている。

過去にいろんな議論があったようだが、基本的な部分を残そうということになっている。

ただ、それがあれば解決するというより、それをきっかけに、例えば就学のときに繋がるとか、学年が上がるたびにお持ちいただいて、前年度こういう取り組みをしていただいた、というところの一助になればいいと思っている。

書き方教室については、検討していきたい。

【会長】

保護者支援について、みやっこファイルやペアレント・プログラムのパッケージ化ということで、いろいろな意見があったが、こども未来センター1ヶ所で実施するとなると、なかなか参加されないということなので、パッケージ化すべきなのはむしろ、例えばみやっこファイルの書き方マニュアルではないか。他府県でそういうものをホームページで挙げているところもある。

みやっこファイル書き方指導で指導者の養成研修というものをすれば、もう少しいろいろところで

できるのではないか。ペアレント・プログラムもそう。

これはおそらくアスペ・エルデの会で作成されて、指導するには一定の研修を受けないといけないものだと思うが、例えば西宮市の予算でペアレント・プログラム実施指導者養成研修みたいなものを実施して、それが例えば保健センター単位でいろいろなところで開催されるとか、そういう形でより広げていくことができるのではないか。

ペアレント・プログラムについてもこども未来センター内にポスターを張るだけでは、通ってこられる方しか目にしないと思うし、平日だと参加しにくいということが実績として上がっているのであれば、例えば土曜日でも実施できる事業所等で実施するような仕組みを作るとか、広報も西宮市のホームページで、ということも考えられるのではないか。

保護者支援は非常に重要だと思う。いろいろな支援は行政の単位でも組み入れていくが、保護者はずっと支援を続けていくので、保護者に対する支援は非常に重要であるにもかかわらず福祉の制度の問題として、例えば児童発達支援事業所や放課後等デイサービスでは、保護者支援にお金が見つからない。そのため、善意でやっているところは赤字でやっていると思う。

ぜひ公的なところで、例えば保健師がみやっこファイルの作成を保健センターで開くというようなことが無料でできれば、もっと広がっていくのではないか。その部分こそ行政の力を発揮していくところではないか。

【会長】

今日参加されている委員の皆様は、昨年度提言案を取りまとめた委員の皆様なので提言案を踏まえて、令和6年度の事業計画について何か意見があれば。

【委員】

提言案については先ほどの6年度の事業のところでは触れられたが、社協でも同じようにいろいろ計画を立てて、それを実行しており、実行内容をチェックするような会議も定期的に持っている。課題ややるべき項目とその目標とその進捗管理みたいな感じで定期的にやっているが、この提言について、具体的にどうしていくか、それを皆でどこまで進んでいるかを共有できるような、何かチェックするような体制的なところをこども未来センターで何か考えているのか。もしそれがなければそうすべきではないのか。

【事務局】

今現在そのチェックしていくような機能作り上げていないので、今後の取り組みについて、どのように進捗管理していくか検討してみたいと思う。

【会長】

提言案に盛り込んだことは、おそらくこども未来センター単体だけでは難しいことばかりだったと思うので、関係部局でぜひそういうことを検討してこの運営審議会でも返していただきたい。

【委員】

今年度の事務局のメンバーの多くは変わっているが、統計資料から、昨年の実績の数値というよりはその数字の質、どれだけの効果があったかを聞きたい。

ペアレント・プログラムでも、集まった人数はもちろん大事だが、どういう人たちが集まってどういう困りごとが解決できたか、その辺りを聞くことができれば、人数に対して、保護者の立場で、西宮市に助けてもらえたとかプログラムが有意義だったと感じとれる。

ポスターの掲示ももちろんやっていただいていると思うが、伝わる範囲が狭くて、西宮の中でまだこども未来センターに接点を持っていない人たちにとって最初の1歩となるように接点を持つというのもこども未来センターの役割であり、相談支援の第一歩ではないか。

私たちの周りでも、3歳とか、5歳の小学校に上がるところで初めてご自身のお子さんの障害を認めるような形の方も多くおられ、受け入れがなかなか進まないというところもある。そういった保護者に対しても、こども未来センターの存在を早期から知ってもらうことに力を入れていただきたい。

【委員】

審議会の委員を何期かさせていただいて、毎年次の事業計画が出されるが、あまり変わらない。チェック機能ができるのはすごく大事。せっかくこれだけ思いを持って集まっている人達がいるのに、何とかならないものか。次に進むために、その辺りのことをしっかり考えていただきたい。

【副会長】

医療的ケアが必要な子供たちが増えているということで、私も看護師として、特別支援学校と医療福祉センターでずっと医療的ケアをやっていた。資料1の18~19ページに、子どもたちの背景情報が並んでいるが、現在わかば園の通園児の中で医療的なケアが必要な通園児数の割合、人数等、医療的ケアの内容、例えば吸引や注入、導尿など、その辺りの情報を載せていただければ。

【事務局】

現在、わかば園で6名の医療的ケア児が通園されている。

【事務局】

気管切開で人口呼吸器のお子様は3名、経鼻経管栄養でチューブを入れているお子様が1名。定期導尿が必要なお子様が2名。

【副会長】

6名ということで割と大変な状況だと思う。これから地域の保育所でも受け入れが始まっていくと思うが、医療的ケアの子を受け入れる場合、まず医ケアの依頼書を書いてもらって、こちらで受けて、主治医に手順書等を書いてもらわないといけないと思うが、受け入れ時のマニュアルみたいなものは作られているのか。

【事務局】

受け入れ時や、わかば園で行っている医療的な内容も含めた総合的なマニュアルを作成し、看護師間で共有している。

【副会長】

マニュアルをどう広げていくかは非常に重要で、どこの園でも受け入れるときに何を、どの書類を用意して、どういうオペレーションが、とか、担任の先生にだけ責任が掛からないようにしていかないといけないところがあり、おそらくわかば園が先進的に実施していると思うので、そういった西宮市の共通した医ケア児を受入れる際のマニュアルという視点も、ぜひ入れていただければ、スムーズに地域でも使えるようになっていくと思った。

18 ページの通園児の疾患別表の 2 番目、②の疾患別表がほとんど肢体不自由の疾患の内容になっていて、令和 5 年度の「その他（自閉症スペクトラム等）」14 名となっているので、もう少し自閉症、もしくは ADHD、発達障害の内訳がわかるような資料にした方が、そういった療育を受けていることがわかれると思う。

【事務局】

医療的ケアは非常に増大しているので、西宮市として学校園における医療的ケアの要綱を、学校園向けと特別支援学校向けにホームページに上がっており、統一した対応を小中学校園と特別支援学校で実施している。

【副会長】

私も支援学校に居たので、そういう要綱は承知しているが、保育所の方で今後ニーズが増えていくはずなので、そのあたりを統一して両方使うようになったらいいと思う。

【会長】

児童発達支援センターわかば園の今年度の事業で、児童発達支援センターの機能強化の部分について国の方針等を受けて、どのように機能強化を具体的にしようと計画されているか説明していただきたい。

【事務局】

これまでは対外的に児童発達支援センターはわかば園単独で名乗っていたが、今回示されている新しい中核機能加算の要件を満たすためには様々な機能が求められている。

わかば園単独で見るとその機能が実現できていない点があるが、こども未来センター全体では様々な機能を実施しており、中核機能を担えたととらえているので、児童発達支援センターをわかば園単独ではなく、こども未来センター全体で児童発達支援センターと名乗っていく形に変えて中核機能を実現していきたいと考えている。

【会長】

他に 2 ヶ所、西宮市には児童発達支援センターがあると思うが、そこについてはどのように計画されて

いるのか。

【事務局】

北山学園でも意見交換したことがあるが、北山学園は要件の中の専門職員の人員配置の部分で実現が難しいため、中核機能加算に手を挙げない方針だと聞いている。こども未来センター単独で中核機能を担いつつ、新しい制度の中で市内の事業者とも連携しながら取り組みを進めていきたいと考えている。

【会長】

提言案では、そのあたりをもう少し見える化していただきたいということも盛り込んでいるので、こども未来センターと北山学園と、もう1ヶ所北部にある児童発達支援センターとそれから地域にある事業所との関連性について、先ほど連携強化ということを言われたが、連携強化について西宮市の中で具体的にどのように位置付けをしていくかを継続的に議論していただきたいと思う。

こども未来センターの枠を越えたところで、どこで継続的に審議されてチェックされるかというところが必要であり、ここで回答していただくことは難しいと思うが、ぜひ今後、庁内で検討していただきたい。

【事務局】

ご質問いただいた内容は、中核機能加算の中の事業所加算に関わることだと思うが、そのためには、市内事業所の中核機能のランチとして位置づけることが必要となってくるので、どういう機能を持った事業所をランチとしていくかは、健康福祉局生活支援部の担当なので、すでに健康福祉局と協議を始めている。

【会長】

協議した結果等も、運営審議会でも報告していただきたい。

【事務局】

児童発達支援センターが市内に3か所あるというお話だったが、Aチームの診療所であったクリニックの院長が亡くなったことにより、児童発達支援センターが1つ減っており、現在はこども未来センターと北山学園の2か所となっている。

【会長】

北部地域のニーズは毎回報告されていたと思うので、その辺りを庁内の上の部局で、継続的に審議していただきたい。

予定の議事については終了となります。

最後に、その他について事務局の方から連絡事項等お願いします。

【事務局】

皆さんありがとうございました。

現委員の皆様におかれましては今回が任期最後の会議となります。2年間の任期期間中いろいろとご意見いただきましてありがとうございました。この場をお借りして改めてお礼を申し上げます。

引き続き委員をお願いする方を含めた新しい委員による次回の審議会は、秋ごろの開催を予定しています。時期が近づきましたら改めて日程調整させていただきますのでよろしくお願いいたします。

【会長】

それではこれもちまして、令和6年度第1回西宮市こども未来センター運営審議会を終了します。